

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会の概要について

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会ご意見
 (緑=しごと部会、黄=ひと部会、赤=まち部会)

施策・事業案

施策・事業の背景 (○=強み、×=弱み)

結婚・出産の奨励

- ・結婚を考える男女の出会いの場(例:20~30代独身者向けの大会(マラソン、ハイキング、ボーリング、バーベキュー等共同作業があるもの)、婚活パーティへの赤ちゃん参加(赤ちゃんを抱っこする姿を見せることで結婚後のイメージづくり)

【若い世代の交流】

- × 出会いの場の少なさ
- × 若い人が集まる場所の少なさ

【結婚・出産に対するイメージ】

- × 結婚・出産に対する消極姿勢

子育て支援の拡充

- ・子育て中の親世代に対する支援(例:給食費や教育費は全て市が負担する、二人目からの援助ではなく一人目からの援助への移行)
- ・妊娠中や出産直後の家庭への支援の拡充(例:エンゼルヘルパー制度)
- ・近隣3市と比べて行政サービスの改善(例:医療の無償化拡大)

【子育て支援】

- 産婦人科の多さ
- 近隣3市と比べて行政サービス水準が高い施策の存在(例:保育園の拡充、子育て支援センター、休日保育、病後児保育)
- 親との同居・近居による、身近に頼れる人がいる環境
- × 近隣3市と比べて行政サービス水準が低い施策の存在(例:同じ所得水準であっても民間保育料が割高な場合がある)
- × 病後児保育や病児保育の不足(充実した自治体と比べて)

子供が育つ環境の整備

- ・様々な体験ができる場づくり(例:新興住宅地と農業・自然体験ができる場をつなぐほか、福祉体験学習など)
- ・子供の遊び場の確保(例:プレイパークの拡充)
- ・異校種間の連携や、様々な学校の特色を活かした施策の展開
- ・家庭教育の充実
- ・学校校庭以外で、スポーツができる場の提供
- ・学童保育や児童館の拡充

【教育環境】

- 学校数と学校の種類の多さ(高等教育機関の存在)
- 学校支援ボランティアによる教育活動の支援
- × 学校の規模格差

子育てを助け合う環境の整備

- ・学校間連携、さらには学校のコミュニティにとられない地域全体のコミュニティの構築
- ・地域を支えあうネットワーク作り(例:元気の良い高齢者と助けをを求める若い人をつなげる方策、各学校や学童、ボランティアなどの団体をつなぐ活動)
- ・地域の高齢者が協力することによる祭りや行事の開催(子供たちが地域に出るきっかけづくり)
- ・公民館とサークルといった地域資源の専門性の発揮と、それぞれをつなげることによる地域課題の解決(例:ボランティア団体どうしが連携することによるサービス応援)

【地域コミュニティ】

- 16の公民館と800のサークルの存在
- × 祭りや行事に参加する子供の減少(少子化の影響)
- × 大人同士の繋がり希薄さが、子供にも影響

働く女性支援

- ・女性の活躍の場を増やす環境としての子育て支援の充実(従来の男性職場に女性を雇用する場合や、福祉分野のように日曜日勤務があるが保育所が見つからない場合など)

- × 子育て中の女性が働ける場所の少なさ

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会の概要について

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会ご意見
 (緑=しごと部会、黄=ひと部会、赤=まち部会)

施策・事業案

施策・事業の背景 (○=強み、×=弱み)

郷土愛の醸成

- ・若者が地域で学んで、夢と意欲を持って地域に残るような教育、地域に戻ってくるような教育の実践
- ・ふるさとや故郷に対する意識の啓発

(意見なし)

働く意義の醸成

- ・若者のポテンシャルを高めるための職業体験・見学機会の拡充(働くことの意義や市内企業を知る機会に)

【若者の能力・経験】

- × 職業経験のない若者の多さ
- × 製造業や農業、水産業等を千葉県内から人材を集めることの難しさ(大学進学が多いことによる人材のミスマッチ)

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会の概要について

 まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会ご意見
 (緑=しごと部会、黄=ひと部会、赤=まち部会)

施策・事業案

施策・事業の背景 (○=強み、×=弱み)

農業の強化

- ・多様な個性を発揮した中小規模農家への支援
- ・オーガニック発想による継続性・持続性ある循環型農業の確立
- ・農業を始めたい人など向けに地方移住の試行支援(畑つき古民家の貸し出しや耕作放棄地の活用等)
- ・6次の産業化に向けた横の連携構築の支援(さらに木更津の良さやオーガニックの発想を入れることによる7次産業化も視野に)
- ・6次産業化における加工業者と地域業者のマッチング(さらに加工産業を誘致することで上総エリア全体での6次産業化も考えられる)
- ・マーケットインの視点を重視した訴求力あるPR(ただし、販路開拓イベントが乱立していることから、オーガニックの高級路線産品など、差別化要素が必要)
- ・地産地消の環境整備や食育との連携(原材料の安定供給やコスト面での障害解消)

- ・農業の高付加価値化や生産性向上に対する支援

【農業の事業環境】

- 農業を行う上で多様な経営形態が可能な土地の魅力(砂地や粘土質、水田、果樹園、山間部、ビニールハウスを使用した農業などの多様性)
- 気候の温暖さ
- 強いイメージのなさ(新ブランドの打ち出しやすさ)
- × 農業の大型化の難しさ
- × 農業の雇用吸収力の低さ・低賃金(アルバイトやパートが主)
- × 6次産業化を1社の資本で行うことの難しさ

【アクセス性】

- 県内・県外との物流の要所(千葉市方面、大田市場、築地、横浜方面など)
- × 都心流通しやすい結果としての地産地消の少なさ

水産業

- ・区画漁業権の第2種付与への働きかけ(アサリの養殖)

【水産業の事業環境】

- × 従事者の大幅な減少(今後数年で水産業が途絶える懸念)

中小企業への支援

(意見なし)

【中小企業の経営環境】

- × 商工会会員の減少
- × 職人の高齢化
- × 海外移転の加速による内需減少

新産業支援

- ・地価とアクセス性を売りにした誘致活動

【新産業の事業環境】

- 土地の安さ
- 国際化された羽田空港や、圏央道による成田空港との近接性
- × 企業誘致できたとしても県内・市内に人材が不足するために地元人材の採用につながりにくい状況
- × アクアラインにおける風や渋滞の問題(特に物流は納品時間が決まっており渋滞の解消が課題)

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会の概要について

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会の意見

(緑=しごと部会、黄=ひと部会、赤=まち部会)

施策・事業案

施策・事業の背景 (○=強み、×=弱み)

観光産業の強化

- ・農業の生産・加工・販売と観光産業の連携強化
- ・商品開発の支援(フルーツランドやブルーベリー関連の活用)
- ・市内観光の相乗効果を高める取組
- ・市街化調整区域の見直し
- ・木更津港の商業的な活用(ヨット係留地を活かした、おしゃれな街のイメージ作り)
- ・観光資源に関する一元的な情報発信サイトやSNSの活用(周遊プランの提案等)
- ・アクアラインの渋滞解消促進
- ・広域連携の促進(木更津駅前市街地と袖ヶ浦北口、木更津市内陸側と君津) ※観光に限定しない

【観光ニーズ】

- 首都圏からの観光客の多さ
- 首都圏からのアクセス性の良さ(高尾山や八王子と類似する東京近郊エリアとしての位置づけ)

【観光資源】

- 都会の人にとって魅力的な自然環境(干潟、水田、山)
- × 海ほたるや大型商業施設といった観光拠点と、市内観光産業の結びつきのなさ
- × 観光産業に関する組織的取組の弱さ
- × イノシシやシカの増加(駆除の必要性。品質のばらつきが商品化のハードルに)
- × イベントの担い手の高齢化や中身の陳腐化

【土地規制】

- × 市街化調整区域が過疎を加速化

市内就労の促進

- ・若者のポテンシャルを高めるための職業体験・見学機会の拡充(働くことの意義や市内企業を知る機会に)(再掲)
- ・地元産業のPRや地域企業の共同求人による、地元就労意識の醸成
- ・新興住宅地の子供たちに対する、ふるさと意識の醸成
- ・バーチャルの世界で地元を向けさせる広報活動
- ・女性の活躍の場を増やす環境としての子育て支援の充実(従来の男性職場に女性を雇用する場合や、福祉分野のように日曜日も勤務があるが保育所が見つからない場合など)(再掲)
- ・障害者の法定雇用率の達成促進

- ・若者が地域で学んで、夢と意欲を持って地域に残るような教育、地域に戻ってくるような教育の実践
- ・ふるさとや故郷に対する意識の啓発(再掲)

- ・市内で働く場を確保するための企業誘致や経営環境の改善(結婚する上で経済力が大切。地元企業で働くきっかけづくりや、IT産業など広大な土地を必要としない企業誘致など)
- ・後継者問題への対応(例:ブルーベリー生産者減少への対応)
- ・木更津市で行われている様々な活動の積極的なPR
- ・交通ネットワーク整備(例:通勤路における渋滞の解消、アクアラインの強風対策、バス通勤定期の利便性向上)

【若者の能力・経験】(再掲)

- × 職業経験のない若者の多さ
- × 製造業や農業、水産業等を千葉県内から人材を集めることの難しさ(大学進学が多いことによる人材のミスマッチ)

【雇用需給】

- × 求人者と求職者の間に起きる雇用のミスマッチ(求人倍率は、建設・採掘、生産工程、販売で高いが、事務的職業や輸送・機械運転、運搬・清掃で低い)。
- × 給料の少なさによる人材不足(特に介護)
- × 地元企業に対する認知不足

【障害者雇用の環境】

- 障害者支援に関する横断的支援体制の確立
- × 障害者の法定雇用率に満たない企業の存在
- × 障害者雇用における低賃金

【就労環境】

- 大型ショッピング施設立地による住環境改善や雇用確保
- × 子育て中の女性が働ける場所の少なさ(再掲)
- × 就職のタイミングで地元を離れた後、なかなか地元に戻ってこない状況(ただし改善傾向)

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会の概要について

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会ご意見
 (緑=しごと部会、黄=ひと部会、赤=まち部会)

施策・事業案

施策・事業の背景 (○=強み、×=弱み)

空き家活用

- ・若者の移住支援
- ・高齢者の生活拠点としての整備
- ・空き地・空き店舗のデータベース化や、入居希望者と物件所有者のマッチング支援
- ・独居老人向けシェアハウスに対する支援

【住宅事情】

- × 人口減少による空き家の増加

転入促進

- ・住んでよかったという街のイメージ作り

- ・安全安心を鍵に、各地域の良さを発信することによる、住んでよかった、来てよかったと言われるまちづくり
- ・定住促進プロモーションの展開
- ・コミュニティチャンネルの積極活用(地域への戦略的情報発信。世代間ギャップの解消にも寄与)

【住環境】

- 都会に近いところでありながら享受できる自然環境の豊かさ(身近な田舎、海や山)
- 東京湾アクアラインなどによる交通アクセスの利便性
- 横浜や川崎と比べた地価や家賃の安さ
- × 古くに整備された住宅街の高齢化

海外交流による活性化

- ・国際都市として、2020年までに人口の半分が英会話できる、おもてなしの市づくり
- ・木更津港をクルーズ船の発着場所にし、地域振興を図る
- ・オリンピックを控えた宿泊施設の整備

(意見なし)

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会の概要について

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会ご意見
 (緑=しごと部会、黄=ひと部会、赤=まち部会)

施策・事業案	施策・事業の背景 (○=強み、×=弱み)
<p>地域協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内の危機感やビジョンの共有 ・市民活動支援センターにおけるボランティア育成(サービスニーズとボランティアのマッチングだけにとどまらない) ・サポーター同士の連携や各地域の連携の促進 ・高齢者施設からのノウハウ提供が可能な仕組みづくり ・地域内の組織や地域間での連携の促進 ・やる気のある地域に対する優先支援 	<p>【市民活動拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度開設する市民活動支援センターに対する期待 <p>【活動の担い手】</p> <ul style="list-style-type: none"> × 地域ボランティアの不足(特に高齢者支援) × 担い手の高齢化
<p>中心市街地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木更津駅前の活性化 ・都市機能を集積し、公共交通ネットワークが整備されたコンパクトなまちづくり ・シャッター通りの空き店舗における若者の創業支援(家賃補助) ・都市のコンパクト化に向けた地域のコンセンサスの醸成 ・自治体として資源投入するエリアの差別化 ・駅前駐車場の有効活用 	<p>【アクセス性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アクアライン開通に伴う交通利便性の改善 <p>【中心市街地の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> × 木更津駅西口の活気のなさ × ドーナツ化現象(都市機能が郊外に分散) × 都心との近さゆえに人が集まる場所(繁華街)の少なさ
<p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅からの2次交通の充実 ・アクアライン高速バスの値段の見直しに対する働きかけ 	<p>【交通機関の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> × バスの利便性低下 × 鉄道本数の減少 × 高速バスの値段の割高感

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会の概要について

まち・ひと・しごと創生に関する意見交換会ご意見
(緑=しごと部会、黄=ひと部会、赤=まち部会)

施策・事業案

施策・事業の背景 (○=強み、×=弱み)

拠点活用

- ・地域課題解決の拠点としての公民館の機能充実(生涯学習だけではなく、災害や健康、認知症、閉じこもりの問題等を話し合う場に。また、若い世代とコミュニケーションをとりながら進める地域活性化が重要)
- ・まちづくりをリードする社会教育主事の採用拡大
- ・若者が集える、活躍できる場の提供
- ・地域による公民館運営の検討

【公民館の状況】

- 地域の核となる人が育ってきた拠点としての重要性

【まちづくり意識】

- × 地域復興における世代間ギャップ

防災組織の維持

- ・市民の防災意識の啓発
- ・自主防災組織の組織率向上や防災リーダーの育成促進
- ・消防団の団員確保やサポーターとしての役割検討
- ・防災備蓄庫としての空き教室の活用
- ・備蓄を市民が有償で預ける仕組みの検討

【自主防災組織・消防団】

- × 自主防災組織の組織率の低さ(県平均が約60%、木更津市31%)
- × 消防団における若い団員確保の難しさ

【防災意識】

- × これまでの災害の少なさから来る危機感の低さ(しかし、東海、南海の地震の連動を考慮すると、今後大きな災害の可能性はある)

コミュニティ維持

- ・新しく住み始めた方との交流機会の確保
- ・歴史や文化を考えたまちづくり

【歴史・文化】

- × 過去の大規模開発により、古くからある歴史や文化が途切れた可能性